

Greening And Communication

金沢工業大学
2009年度プロジェクトデザインII

プロジェクトテーマ名	緑化をキーワードとした地域改良
チーム名	りっぴん
チームメンバー	中村 博幹 山本 司成 斎藤 啓太 藤原 俊久
担当教員	内井 達夫

Concept

我々のチームでは「緑化をキーワードとした地域改良」をプロジェクトテーマとし、都市の空間に緑化スペースを設けることで地域住民の交流が生まれることを目標とする。今回それらの問題を解決するためのモデル地域として、嵐川土手沿いのランニングコース周辺と、奥野や野町などの住宅地の二つを挙げる。嵐川土手沿いの敷地では、主に周辺の地域住民や多くの会社に属する社会人が集えるような空間に加え、企業や地域団体を対象とした貸出型の緑化スペース（ガーデニングスペース）を設け、奥野、野町の敷地では伊集分権による住民を対象とした緑化スペース及びコミュニティスペースの確保を呼び設計を進めていく。これらの設計は、緑化空間を住民、企業に貸し出すことにより緑化が容易に実現する機会を生み出し、それを中心とする人と人とのつながりや自然に対する意識の向上が生まれることを狙っている。そのため緑化はあくまで地域住民、団体がメインで行うものとし、我々がその活動の基盤となる環境を設計するものとする。

Site

今回は金沢市を緑化モデル都市と仮定し、市内にある2カ所にモデル地区をもつ。03などで既述の環境変化を再現しプロジェクトの有用性を検証する。市内2カ所のモデル地区は商業して住宅の立ち並ぶ奥野と、金沢市内に長い歴史を持つ嵐川土手沿いのランニングコースとする。前者は住宅街であるがゆえに緑化を行えるようなスペースが少なく、後者は敷地は広いものの向もないうち広場が延々と続く状態となっている。

Site : Kanazawa city

Model 1 : Izumino

Model 2 : Saigawa river



Model 1 : Izumino

今回は敷地を金沢市奥野の住宅街の敷地に設定することにした。対象敷地の地図を下に示し、施工予定となる緑地を緑色のラインで示す。

設計内容

- 車路地の歩道分離
→安全性の確保、緑化空間の確保
- 地域住民が自由に使えるガーデニングスペース
→共同作業の場
- 旧圃の緑化
→景観保護、水質浄化の向上
- 道路をアスファルトから土へ
→景観向上、騒音の低減

基本的にこの敷地で行われる緑化活動はすべて近隣住民の手で行われる。それにより、近隣関係の改善や町内会など地元組織の活動の活性化や、ガーデニングなどの趣味を共有することによる住民同士のコミュニケーションの増加が期待される。

考察結果

アスファルトに覆われていた道路を土に戻し、伊集分権を回るだけで、複層的、動的な面でもかなりの効果を得ることができた。また、それにより生まれた空間にガーデニングスペースを設けたことで敷地はその地域全体の賑やかな空間として生まれ変わり、遅れゆく地域改良に歯止めをかけるきっかけとなり得る空間が生まれた。



Model 2 : Saigawa river

今回の敷地は嵐川土手沿いに広がるランニングコース沿いに設定した。対象敷地の地図を下に示し、施工予定となる緑地を緑色のラインで示す。

設計内容

- ランニングコースに沿った緑化
→防犯性の確保
- 企業の広告塔となるような緑化スペース
→企業への貸し出しによる広告収入、活動の拡大
- 会社員や散歩の人たちが休めるレスト空間
→一人の憩業
- 緑化を使った河川の浄化、生態系の維持
→自然環境への配慮
- 広範囲にわたる公園のような空間
→金沢市の緑化活動のシンボル

この敷地では、広い敷地を持って様々な人、企業、団体など金沢に隣接するすべての人が共同でガーデニングをしていけるような空間を確保する。また、近郊化する企業の緑化活動アビリティの基盤として土壌を貸し出し、このプロジェクト全体の知名度向上及び協賛資金の抽出に寄与する目的も兼ねている。全体としては住民、企業が同じ場所で作業を共有しそこから地域のコミュニケーションがとられていくことを目標とする。

考察結果

たとえ生の広がるだけの土手沿いをガーデニングスペースとして使用することで景観に鮮やかな変化を生み出すことに成功した。またそれは金沢市の地域改良型緑化活動の基盤となり得るだけの規模があり、このプロジェクトを全国に発信していく上でも有効である。さらにレスト空間を設けたことで、普段かわりを待ちにまち地域住民と地元企業の社員が共に同じ時間を共有できるスペースを生みだせることに成功した。

